

南阿波総合診療専門医研修プログラムの紹介

総合診療専門研修とは

2018年4月から新しい専門研修制度が開始されます。そして、新たに総合診療専門医が19番目の専門領域に加わりました。

「現在、地域の病院や診療所の医師が、地域医療を支えている。今後の日本社会の急速な高齢化等を踏まえると、健康にかかわる諸問題について適切に対応する医師の必要性がより高くなることから、総合的な診療能力を有する医師の専門性を学術的に評価し、新たな基本診療領域の専門医と位置づける。総合診療専門医の質の向上を図り、以て、国民の健康・福祉に貢献することを第一の目的とする。我が国の今後の医療提供体制の構築に資する制度とする。（総合診療専門研修プログラム整備基準）」

こうした理念のもと、総合診療専門研修プログラムは、病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために創設されました。

専門研修の概略

研修プログラムでは、以下の5つの必須診療科研修と選択診療科研修で3年間の研修を行います。研修施設や研修する順番については、個別のニーズに合わせて調整を行います。

【必須診療科研修】

① 総合診療専門研修Ⅰ

診療所または地域の中小病院での外来診療・在宅医療中心

② 総合診療専門研修Ⅱ

総合診療部門を有する病院での病棟診療、救急診療中心

総診Ⅰと総診Ⅱは原則として異なる施設で行い、研修期間はそれぞれ6か月以上、合計18か月以上

③ 内科

内科専門研修認定施設での研修。臓器別の専門内科でないことが望ましい

研修期間は12か月

④ 小児科

小児の外来・救急・病棟で、日常的によく遭遇する疾患を中心とした研修

研修期間は3か月

⑤ 救急科

救命救急センターあるいは救急科専門医指定施設

研修期間は3か月

【選択診療科研修】

外科、整形外科、産婦人科、脳神経外科などの科での研修を選択可能です。ただし、必須診療科研修との兼ね合いで研修が難しい場合もあります。

南阿波総合診療研修プログラムの概要

徳島県立海部病院を基幹病院とし、徳島大学大学院総合診療医学分野が運営するプログラムです。海部病院を中心に徳島県南部地域の医療機関を研修することで、同じ医療圏の中で地域医療を実践しながら家庭医療研修を行うことが出来ます。

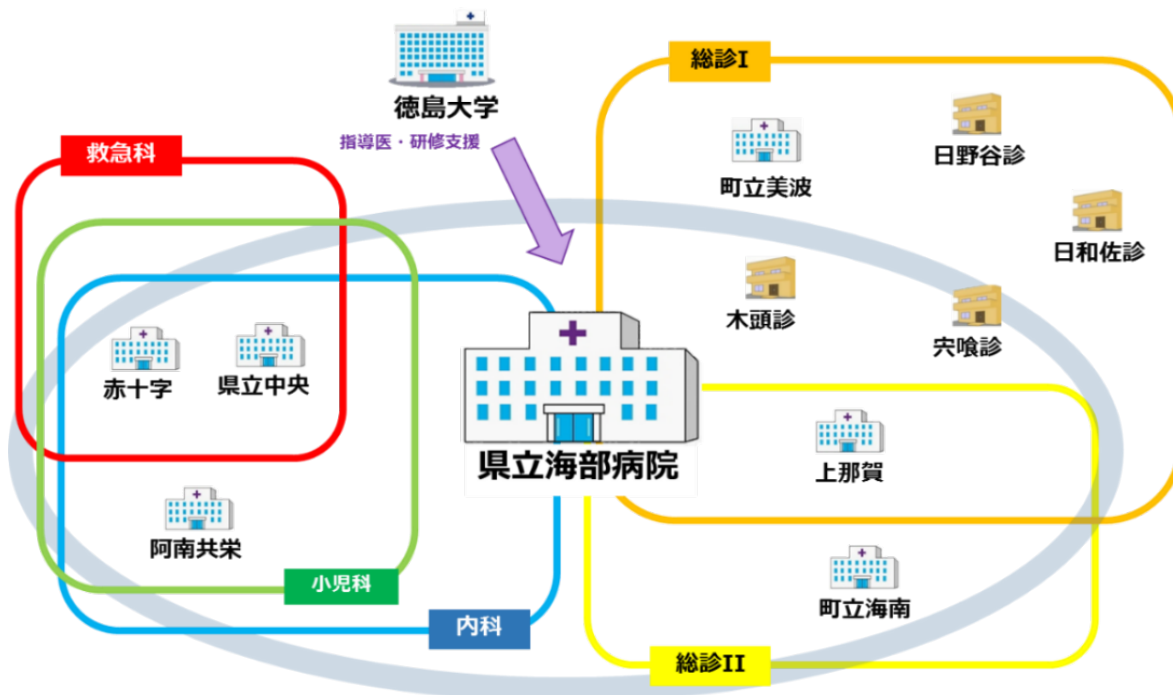
指導医として家庭医療専門医が在籍し、総合診療医としての知識や洞察力を深める勉強会や振り返りが定期的に開かれます。遠隔地で研修していても、インターネットを通じて学びや交流の機会が保たれます。

【プログラム統括責任者】 河南真吾（海部病院総合診療科・徳島大学総合診療医学分野 助教）

【定員】 3名

【研修期間】 3年

【連携施設】



- A) 徳島県立海部病院（総診I、総診II、内科、脳神経外科、整形外科）
- B) 徳島赤十字病院（内科、小児科、救急）
- C) 海陽町立海南病院（総診II）
- D) 美波町国民健康保険美波病院（総診I）
- E) 海陽町穴喰診療所（総診I）
- F) 美波町国民健康保険日和佐診療所（総診I）
- G) 那賀町立上那賀病院（総診I、総診II）
- H) 那賀町国民健康保険日野谷診療所（総診I）
- I) 那賀町国民健康保険木頭診療所（総診I）
- J) 徳島県立中央病院（内科、小児科、救急、外科、整形外科、産婦人科）
- K) 阿南共栄病院（内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科）

【ローテーション例（実際は個別に相談して組みます）】

年\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	内科 海部											
2	総合診療専門研修II 海部											
3	小児科 徳島赤十字			救急 徳島赤十字			総合診療専門研修I 穴喰診療所					

【連絡先】

徳島大学医歯薬学研究部総合診療医学分野・徳島大学病院 総合診療部

<http://www.tiki.umin.jp/>

088-633-9656（事務室）

谷 憲治 taniken@tokushima-u.ac.jp

河南 真吾 shingok@mac.com